

蚕影（こかげ）神社

養蚕守護の神をまつた神社。と言うことは、このあたりでは養蚕をさかんに行っていたことが分かります。実際、1975（昭和50）年ころまでは養蚕を行っていたそうです。この神社は全国にあります、「金色姫伝説」を持っています。



蚕影神社全景

金色姫伝説とは

5世紀頃、天竺（いまのインド）に、りんい王とその娘の金色姫がいました。

あるとき、姫の母親が亡くなると王は新しい皇后を迎えました。しかし、皇后は美しい姫を憎み、王のいないときに何度も姫を殺そうとします。ある日、王は庭で生き埋めにされた姫を見つけると、将来を心配して泣く泣く船で逃がすことにしました。

長旅の末、船は常陸国（いまの茨城県）の豊浦にたどり着き、それを漁師の権太夫さんが見つめました。権太夫さんは弱っていた姫を看病しましたが、まもなく死んでしまいました。

姫のお葬式をしてからしばらくすると、夢の中に姫が現れました。そして、

「食べ物ください。恩返しをします」

と言いました。そこで、姫の死体が入っているかんおけを開けてみました。すると、そこにはたくさんの虫がいました。姫の船が桑の木で出来ていたので桑の葉を与えてみると、その虫たちは喜んで食べました。

やがて虫たちはまゆをつくりました。すると今度は夢の中に仙人が現れて、まゆから糸をとることを教えてくれました。それが養蚕のはじまりだといえます。



蚕神碑



それにしても、この神社の立地はとてもいい。岡野の台地の先端に、まるで渡瀬地区を見渡すかのように建っています。とてもいい景色ですよ。